

コスタリカ共和国政府観光局

I·C·T



Costa Rica

「中米の楽園」と称されるコスタリカ共和国。スペイン語で「豊かな海岸」を意味するところ、太平洋とカリブ海に囲まれた小さな国土に、多種多様な動植物が生息する美しい国です。アクアマリンの海、白い砂浜、濃緑の熱帯林、色鮮やかな花々に彩られた常夏の地に、人口約420万人が平和に暮らしています。そしてこの小さな「楽園」が、近年、「自然保護政策の先進国」、「軍隊を持たない非武装永世中立国」として注目を集めています。

当ページはコスタリカに関する情報をまとめています。
全ページ、もしくは欲しい情報の部分だけをプリントできます。

コスタリカ情報

- ・ 基本データ
- ・ コスタリカに見る本当の豊かさとは
- ・ 今日のコ스타リカ
政治／経済と産業／社会と文化
- ・ トラベルデータ
- ・ 地図と観光情報
- ・ 語学学校一覧表

BASIC DATA

基本データ

国名 コスタリカ共和国

Republica de Costa Rica

面積 5万1000km²

(九州と四国を合わせたくらい)

人口 420万

他にニカラグア等の難民が10%以上永住している。

首都 サンホセ San Jose (人口285万人)

民族 スペイン系を主とする白人とその混血95%、黒人3%、先住民2%

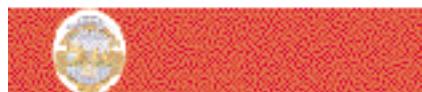
宗教 ローマカソリック85.3%、

プロテstanto他14.7%

言語 公用語はスペイン語。

ホテル等では英語が通じる。

国旗 国旗は、横に上から青、白、赤、白、青の5条からなる。青と白は中米連邦の旗に由来するもので、真ん中の赤帯は「自由」を象徴している。



国章 国章は、コスタリカの地理的特色を表現したバルバ、イラス、ボアスの3火山と、カリブ海と太平洋に浮かぶ帆船が描かれている。政府代表者たちの行事の際には、この国章の入った国旗が使われる。これは政府代表者のみが使用をゆるされている。



国花 グアリア・モラーダ (カトレアの一種)



国樹 エル・グアナカステ (日本では日立のCMで使用されているマメ科の喬木)



国鳥 バフムジツグミ

祝祭日

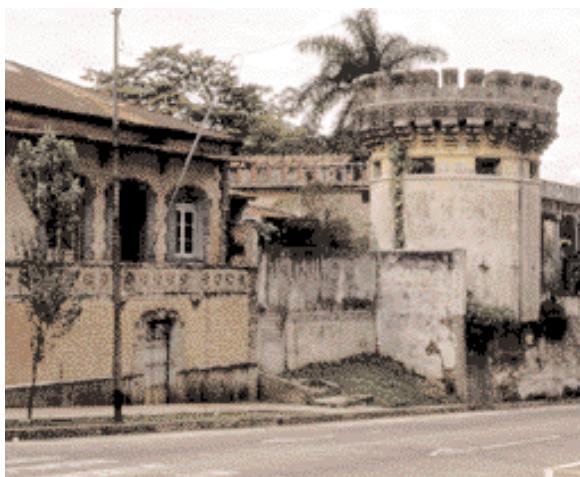
- 1月 1日 元旦
- 3月19日 サンホセの日
- 3月下旬～4月上旬 復活祭
- 4月11日 フアンサンタマリアの日
- 5月 1日 メーデー
- 6月29日 聖ペドロ聖パブロの日
- 7月25日 グアナカステ併合記念日
- 8月 2日 ロスアンヘルスの日
- 8月15日 母の日
- 9月15日 独立記念日
- 10月12日 コロンブスの日
- 12月 8日 聖母受胎の日
- 12月25日 クリスマス

「豊かな」国をつくりあげてきた歴史

1502年にクリストファー・コロンブスがコスタリカに初めて足を踏み入れて以来、多くのスペイン人入植者が、肥沃な農地と豊かな収穫を求めて次々とコスタリカに移住するようになりました。厳しい開拓生活を経て堅い団結の精神を養ってきた彼らの子孫たちが、今日のコスタリカをつくりあげてきたのです。

<歴史の概要>

年	内容	
1502	コロンブスがコスタリカを発見	1910 カルタゴ大地震
1540	スペインの県となる	1949 軍隊制度の廃止 現在の憲法に改正
1542	グアテマラ総督府に編入	1955 婦人投票の開始
1821	スペインから独立（9月15日）	1966 二大政党の確立 大統領の再選を禁止
1823	奴隸制度の廃止	選挙最高裁判所の常設
1824	中米連邦に属する	中央銀行などの発足
1838	中米連邦から脱退	1975 200海里の経済水域を世界で最初に宣言
1848	コスタリカ共和国として独立 (国旗・国章の制定)	1980 国連平和大学の創設（世界初）
1878	中米最初のバナナ栽培開始 (輸出により外貨収入が増加する)	1983 永世非武装中立宣言（世界初）
1882	死刑制度の廃止	1989 オスカル・アリアス大統領（当時現役） がノーベル平和賞を受賞
1883	鉄道の完成 (コーヒーなどの輸送に使用される)	1994 地球評議会の本部事務所開設 (国連主催の第2回自然環境サミットを コスタリカで実施)
1886	国費による普通教育の開始	1996 市民警察を再編。一本化
1889	民主選挙の実施	1997 インテル社が工場を建設
1890	中米最初の完全自由選挙の実施	1998 国連安保理の非常任理事国に選出
		2003 大統領の連続再選禁止



国立博物館（旧参謀本部）



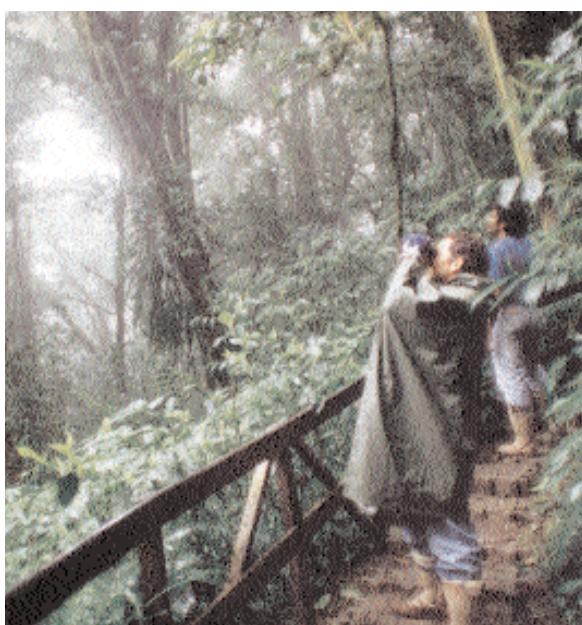
博物館の中庭にある丸石

コスタリカに見る本当の「豊かさ」とは

21世紀の資源大国

最近の研究では、地球上には3,000万種もの生物が存在すると推定されています。現在確認されている生物は140万種ほどですが、まだ発見されていない未知の生物の大半が熱帯雨林に存在すると考えられています。コスタリカは北緯8～11度に位置し熱帯に属しますが、南北アメリカ大陸と、太平洋とカリブ海の二つの大洋に囲まれ、変化に富んだ地形によって、多種多様な気候や生態系を楽しむことができます。その四国と九州を合わせたほどの面積、地球の総面積のほんの0.03%に過ぎないその国土に、地球上の動植物種の約5%が生息しています。ほ乳類209種、鳥類850種、両生類・爬虫類378種、植物9,000種（蘭1600種 [世界の蘭の10%]）と、生物の種類も多種多様です。そしてその豊かな自然環境を守るために、国土の25%以上を自然保護区に指定し、国家をあげて環境保全に力を注いでいます。

豊かな熱帯雨林の中に息づいている未知の生物の数は計りしだれません。新しい資源や新薬の開発など、自然の生態系を利用した21世紀型の産業スタイルを考えると、これから「資源大国」とは、コスタリカのような生物の多様性や生息数の多さを誇る国のことと指すのではないでしょうか。



平和と人権を守る国姿勢

日本国憲法はその前文と第9条に、平和の希求と戦争放棄を定める平和憲法として知られていますが、コスタリカもまた、憲法で軍備を禁止した平和を愛する国家です。1949年に改正されたコスタリカ国憲法の第12条には「軍は恒常的な組織としては、これを禁止する。警備および治安を維持するために、必要な警察力を保有する」と明記されています。軍隊の廃止と、戦車や大砲などの重火器の放棄を実現させ、民主主義と自由を追及する「永世非武装中立国」となったのです。国内の治安を守るために組織されている国家警備隊も、その警備予算は全国家予算のわずか2%弱を占めるに過ぎません。治安よさについては、職務時間以外には大統領が自ら車を運転して出掛けることを例にとっても、容易に理解することができるでしょう。

高い教育水準

国の教育レベルを計る基準として「識字率」があげられますが、コスタリカは95%という高い数字を誇っています。1949年に国費による義務教育制度を開始（普通教育は1886年から行っていました）、9年間の義務教育を無料で実施する制度に対して、実に国家予算の24%を教育費にあてているのです。高等教育の場としてサンホセに設立された「コスタリカ大学」を始め、各種の技術学校や師範学校などの専門学校が多数あります。

21世紀に入り、これからは英語とインターネットを中心とした知識が不可欠という時代が到来しようとしています。日本でも小学校から英語教育を導入する動きが始まっていますが、コスタリカ（都市部）ではすでに小学校1年生の時点で、母国語であるスペイン語以外の外国语学習率が25%を越えています。また早くからインターネットの環境整備が始められ、サンホセにおいては回線使用率も高く、中米のインターネット大国といえます。

「自然保護」「エコツーリズム」の先進国

コスタリカは数字に現れているように「生物の宝庫」であり、国土の25%以上を自然保護区（国立公園）に指定し、森林の伐採や乱開発を禁止しています。近年話題になっている「エコツーリズム」を世界に向かって提言した国でもあります。「何も持ち込まない、何も持ち出さない」ということを基本に、五感で感じる自然環境と現地住民の生活に配慮した旅行を実施することで、自然や野生生物の素晴らしさ、環境を保護することの大切さを世界に広めるのに、大きな役割を果たしています。

他にも「世界で初めて200海里の経済水域を宣言し（1975年）」、「世界環境サミットの主催団体である地球評議会（Earth Council）の本部事務所がサンホセに置かれている（1992年）」「自然環境の保全に力を注いでいるINBio（生物多様性研究所）がコスタリカに開設される」など、環境保護において世界のリーダー的な存在となっています。

生物の宝庫

ほ乳類（209種）

ピューマやジャガー、ナマケモノあたりを除いて、大型のほ乳類は数が少ない。ハナグマやコアリクイ、アグーチ、ノドジロオマキザルなど、小～中型のものがほとんどである。

鳥類（850種）

全世界の鳥類の約10%にあたる。「空飛ぶ宝石」と呼ばれるハチドリやカラフルなコンゴウインコ、大きなくちばしが特徴のトゥカンなど、多彩な種類の鳥を見ることができる。中でも手塚治虫のマンガ「火の鳥」のモデルになったケツァールはエメラルド色に輝く美しい鳥で、バードウォッチャーたちの憧れの存在。

ウミガメ（5種）

全世界に生息する8種（コスタリカの数え方。日本は、七種類と数える）のうち5種類のウミガメがコスタリカの海岸に産卵にやってくる。「アリバダ」とよばれるヒメウミガメの大産卵現象が起こる世界で八ヶ所しかない海岸のある。

爬虫類（218種）

イグアナやバシリスクなどが生息している。

両生類（160種）

アカメアマガエルやヤドクガエルなど、色鮮やかな種類が多い。ヤドクガエルは卵が孵化すると幼生（オタマジャクシ）を1～2匹ずつ背に付着させて、小さな水玉や葉にたまつた水場まで運んでいくというユニークな行動をする。

魚類（130種）

複雑な地形から魚類の種類も豊富で、ダイビングポイントも数多い。ココ島は特に魚影も濃く、群れ泳ぐハンマーHEAD・シャーク（シユモクザメ）や巨大なマンタ（エイ）に遭遇できるポイントとして有名。

蝶類（1,239種）

全世界の蝶類の10%にあたる蝶の中で最も美しいといわれる。特に目を惹くのが鮮やかなブルー羽のモルフォチョウ。

ほかにも、コスタリカのいたる所で見られるハキリアリや、昆虫収集家の憧れの的ヘラクレスカブトムシなど、昆虫の種類も数多い。

変化に富んだ地形

火山と山岳

中央には多数の火山を有する山脈が走っている。アレナル火山から噴出する溶岩の光と音による壮大な夜間のショーには驚かされる。中央高原を横切る山脈にはボアス、バルバ、イラス、トゥリアルバ火山が連なり、数多くの観光客を圧倒してきた景観を誇る。南にはコスタリカの最高峰チリポ山（3,821m）を含む非火山系のタマランカ山脈が聳えている。

河川と海岸線

河川にも恵まれ、全長100kmを越える川も少なくない。カリブ海側にあるレベンタソン・バルシミナ川は全長145kmで、ダイナミックなラフティングなどが楽しめ

穏やかな気候

「常春の国」とも呼ばれる。平均気温は高原で21°C、低地で20°C台後半から30°C台半ばまでの範囲で、年間を通してあまり差がない。太平洋側では12月～4月にかけての乾期と、5月～11月にかけての雨期とに分けられるが、カリブ海側は7月と12月をピークに一年中雨が多く、太平洋側のようにシーズンによる大きな変化は見られない。

今日のコスタリカ

政治

コスタリカは世界でも有数の民主主義が定着した国で、立法共和制をしき、「立法」「司法」「行政」の三権が分立しています。行政府は大統領と大統領と2名の副大統領、17名の大蔵からなる内閣から構成されています。大統領は4年ごとに直接選挙で選出され、連続再選は禁止（再選は1回）されています。立法府は、国民投票により選出された57名の議員からなる、一院制の議会で構成されています。司法は最高裁判所と下級裁判所により構成されています。最高裁判事は8年の任期で国会が任命し、そのほかの判事は最高裁判所が任命します。

コスタリカの大きな特徴は、司法からも独立し、「第四の権」とも呼ばれる選挙最高裁判所があることです。これは4年に一度実施される大統領、副大統領、議員、町長の選挙管理に責任を負う組織です。

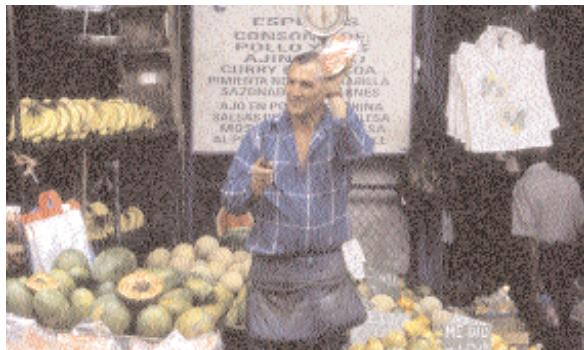


経済と産業

コスタリカは中米の中で1人当たりの国民総生産が最も高く、逆に所得の格差が最も小さい国です。就業人口の4分の1がコーヒーの生産に従事しており、コスタリカの経済はコーヒーやバナナなどの一次産業品に依存しているといえます。しかし長期的に安定した経済状態を維持するために、観光産業やハイテク技術を生かした新しい産業の充実に力を注いでいます。

農業

主要生産物は、国内で消費されるトウモロコシと米、そして輸出用のコーヒーとバナナ。近年では輸出品目の多様化を目指し、パイナップルやメロン、観葉植物などの栽培も進めている。



製造業

コスタリカは中米で最も工業化が進んでいる。製造業の中心は魚の缶詰や食用油などの食品加工部門のほか、化学、繊維、金属なども主要な分野。

世界的なインテル社の工場がコスタリカに進出したことは有名です。

貿易

アメリカ合衆国が最大の輸出相手国。そのほかではドイツ、イタリアを中心とした欧州先進国の割合が高い。コーヒーやバナナといったこれまでの主要輸出物に加え、近年では電気製品や電気機器、繊維などの工業製品の割合も増えている。

観光業

コスタリカはその豊かな自然環境と治安の良さから以前より観光国として有名だったが、80年代半ば以降から先進国を中心に自然環境への関心が高まり、エコツーリズムが流行し出したことにより、施設や人材などの整備を進めてさらなる充実を計っている。米国旅行会社の6万1000社にエコツーリズムのディスティネーションをアンケート調査したところコスタリカが、第一位で選ばれた。



社会と文化

コスタリカは、かつてスペインから入植してきたスペイン人が先住民族との交流のなかで育んできた独特な社会と文化を持っています。

コスタリカ人

コスタリカ人を愛情を込めて呼ぶ呼び方に「ティコ (Ticos)」という言葉が使われる。ティコたちは皆気さくで思いやりにあふれており、客を充分にもてなす暖かい国民性を誇りにしている。「Pura Vida！」

教育と福祉

教育水準は高く、教育費に国家予算の4分の1をあてて来たことをみても、教育を重視していることが分かる。1886年の教育制度改革によって国費による普通教育が始まり、1949年には9年間の義務教育が無料で受けられるようになった。義務教育後、約3分の1の生徒が上級の学校へと進む。また平均寿命は72～75歳と中南米では際立った高さにあり、行き届いた医療制度など福祉の面でも充実していることがわかる。

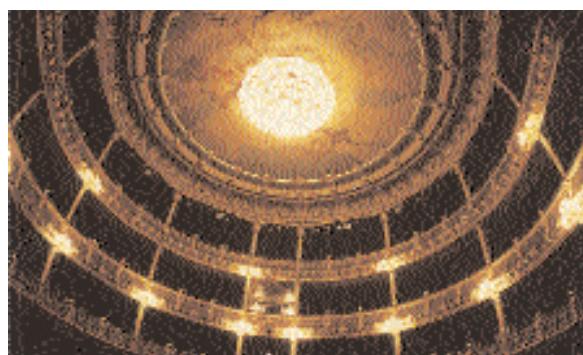


医療とハイテクノロジー

コスタリカは予防医学をはじめとする医療サービスが普及しており、都市部、農村部ともに高い水準に達している。医療技術も高度で、先進国にも劣らない充実ぶりである。また、サンホセは世界で3番目に電灯を設置した都市であり、コスタリカの先端技術への関心の高さがうかがえる。コンピュータ業界の最大手であるIntel社が数多い誘致候補の中からコスタリカを選び工場を置いた。これはコスタリカが充分な電力供給が可能なことのほかに、治安、税制、労働力、資金力を有しているということの現れである。コンピュータ教育やインターネットの分野にも力を入れており、インターネットが始まったばかりの頃、アメリカ合衆国がその相手にコスタリカを選んだという実績を持つ。

文化

19世紀に行われた教育の普及努力のおかげで、世界に誇れるほどの文化水準向上が見られた。サンホセにある国立劇場は、国民の豊かな文化性を表す象徴でもある。パリのオペラ座を模して造られ、その内部は大理石の階段、ベネチアンミラーをあしらった内装、天井に描かれたフレスコ画、とまるでヨーロッパにでもいるような錯覚に陥るほどの出来栄えだ。それが国民の強い誇りでもあり、コスタリカ文化のシンボルとなっている。またサンホセには数多くの博物館があり、歴史や芸術に対する意識の高さがうかがえる。



世界遺産

La Amistad ラ・アミスタ国際公園

Isla del Coco ココ島国立公園

Guanacaste グアナカステ自然保護区物



トラベルデータ

アクセス方法

日本からの直行便は運航されていない。アメリカ合衆国やメキシコを経由して入るルートが一般的。<例>コスタリカ国営のラクサ航空(Lacsa)を利用する

時差

日本より15時間遅れ。サマータイムは採用していない。

ビザ

日本人は90日以内の観光滞在であれば、ビザは不要。パスポートの残存期間は6ヶ月以上が望ましい。予防接種証明書(イエローカード)は特に必要なし。

商用の場合は、在日コスタリカ大使館の領事部に時間的余裕を持って申請すること。

在日コスタリカ大使館

〒106-0031 東京都港区西麻布4-12-24
第38興和ビル901

TEL: 03-3486-1812

時間: 月~金10:00 ~ 17:00

在コスタリカ日本大使館 Embajada de Japon

400 Mts. y 100 Mts. de la Nunciatura

TEL: 506-232-1255

時間: 月~金08:00 ~ 11:30, 13:00 ~ 16:00

通貨単位

通貨の単位はコロン(C)

換算レート US\$1 = C410

通貨の種類

お札: 10000, 5000, 1000, 500,

硬貨: 100, 20, 10, が使用されている。

米ドルもホテルや主要なレストランで使用可。

おつりは全てコロンになる場合が多い。

日本円は使えないでの、US ドルのトラベラーズチェックや現金を持っていくのが一般的。

クレジットカードはVISA, MASTER, AMERICAN EXPRESS, DINERS が使用可 (JCB は使用出来ないので注意)。

税金

ホテル宿泊に対して16.39%の観光税がかかる
食事に対して21%の税金&サービス料。

物品購入に関して消費税5%以上

(食品非課税、高級品税高)

出国税

US\$26 (2001年3月現在)

コスタリカ入国情時の免税範囲

外貨及び通貨: 無制限

(US\$10,000以上は申請が必要)

タバコ: 1kg (800~1,200本)

酒: 3本

旅行者の免税制度: 空港内の免税店利用のみ

チップ

サービスを受けた場合10%~15%のチップを渡す習慣がある。

主な電話番号

コスタリカの国番号506

緊急911 警察117, 127 救急128, 211-5818

消防118 交通222-9330 時報112 電報123

番号案内113 国際直通電話案内124

国際電話オペレータ通話116

国立病院 San Juan de Dios Hosp. 257-6282

Mexico Hosp. 232-6122

私立病院 American Clinic 222-1010

Biblical Clinic 257-5252

ビジネスアワー

官庁: 月~金 08:00 ~ 11:30, 13:00 ~ 16:00

銀行: 月~金 08:00 ~ 15:00

商店: 月~金 08:30 ~ 11:30, 14:00 ~ 18:00

土 08:00 ~ 11:30

交通機関

タクシー 主要都市ではすぐに見つけることができる。12km以上の遠距離は運転手との交渉によって運賃が決まる。

レンタカー 空港と主要都市では24時間サービスで借りられる。ほとんどの会社で保証金を前払いするシステムを採用している(クレジットカードで申請すれば保証金や前払い金などは不要)。

バス サンホセ市内は都市バスが運行している。

主要都市を結ぶ長距離バスは、各々のバスターミナルで事前にチケットを購入する。

電圧

110ボルト/60ヘルツ。プラグは日本と同様のものを使用。

気候

コスタリカは地理的には熱帯に属するが、特異な地形の影響で気候は非常に変化に富んでいる。サンホセは年間平均気温22.5度という常春の快適な気候。雨季(Green Season)は5~11月、乾季(Dry Season)は11~5月で、雨季にはスコールが降る。

服装 サンホセなどの高地では朝晩気温が下がるため上着が必要。

持ち物 ジャングルに行く場合は、虫除けスプレー・かゆみ止めは必需品。

治安

武器を持たない非武装中立国なので、中米一治安がいいといわれている。ただし、人ごみの中に出掛けるときはスリやひったくりに注意する必要がある。また、地元住民が近寄らない場所には行かないこと。

飲み水

水道水は飲めるが、ミネラルウォーターの方が無難。

お土産

まず何といっても外せないのがコーヒー。コーヒーを原料にしたリキュール酒も人気がある。民芸品では「カレータ」と呼ばれる手描きの模様が鮮やかな牛車が代表的で、大きさや模様などさまざまなタイプのものが売られている。ほかにもTシャツや木工品など、旅の記念になるものを見つけることができる。



コーヒーの花

食事

コスタリカは農業環境に恵まれ、豊富な食材が手に入る。コスタリカ料理の中で最もポピュラーなものは「ガジョ・ピント」。赤飯のピラフといった趣のもので、朝食ではこれにスクランブルエッグとサワークリーム、トルティージャなどと一緒に食べるスタイルが好まれている。ほかにもタロイモ・プラタノやトウモロコシ、肉、野菜を煮込んだスープ「オーリヤ・デ・カルネ」やチキンのピラフなど、日本人の口にもよく合う料理がある。また世界各国から観光客が訪れるため、フランス料理、イタリア料理、中華料理など、さまざまな料理が楽しめる。サンホセ市内には日本料理店もある。パパイヤやスイカ、パイナップル、パッションフルーツ、バナナ、メロンなどフルーツの種類も豊富で、イチゴやマンゴーなどのフルーツと新鮮なミルク、ハチミツをクラッシュアイスとミックスしたジュース「リフレスコス・ナチュラーレス」も美味しい。また、コーヒーの名産地で有名なコスタリカだけに、濃厚で風味豊かなコーヒーを充分に堪能できる。

エコツーリズム

エコツーリズムとは「入場料を徴収して自然の場を体験させ、その入場料の一部を人件費と自然保護活動にあてる」という自然志向型の観光のことですが、コスタリカはその発祥の地といわれ、世界に向けて初めてエコツーリズムを提言した国です。「何も持ち込まない、何も持ち出さない」ということを基本に、五感で感じる自然環境と現地住民の生活に配慮した旅行を実施することで、自然や野生生物の素晴らしさ、環境を保護することの大切さ伝えています。

国土の25%以上を国立公園や保護地区に指定し、徹底した自然保護の姿勢を保っているコスタリカは、国の政策としてエコツーリズムを推進しています。観光客は教育を施された専門ガイドの説明を聞きながら、熱帯雨林や熱帯雲霧林の散策し、バードウォッチングなどを存分に楽しみながら、自然環境についての勉強や意識改革ができるという、素晴らしい環境が整っているのです。

地図と観光情報

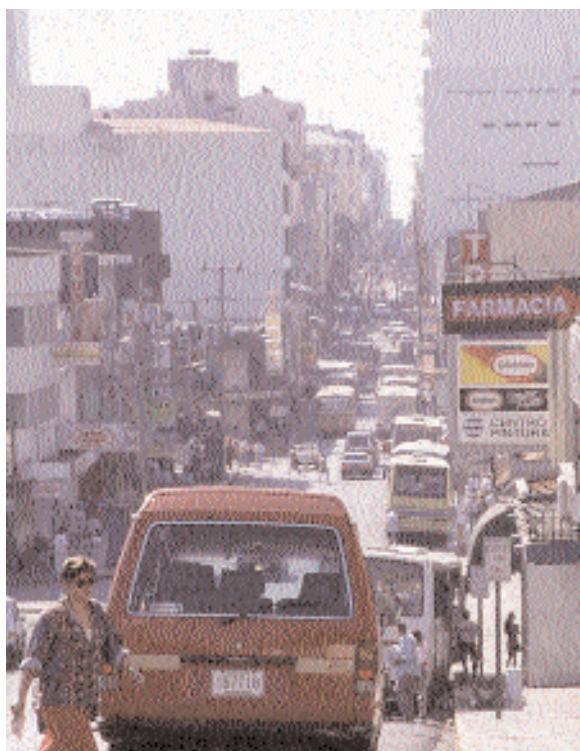


主要都市

サンホセ San Jose

コスタリカの首都であり、岡山市と姉妹都市関係にある。中央高地の中心、標高約1,150 mに位置する。1737年に小さな集落から始まったこの都市は、タバコやコーヒーの取引により急速に発達。旧都カルタゴと対立し、最終的には首都の地位を奪う（1823年～）までになり、今にいたる。

現在のサンホセは、アメリカナイズされているが、黄金博物館やヒスイ博物館に行けば、中米独特の特徴的な産物を見ることができる。中心部に残る建物もヨーロッパ的で美しい。100年以上前に造られたパリのオペラ座のレプリカで「100万ドル劇場」といわれる国立劇場は、サンホセで一番の観光名所の一つ。



カルタゴ Cartago

1563年に創設されたコスタリカ最古の町で旧首都。遷都後に起こった2度の地震により多くの教会が壊れ、現在その跡地は花が咲き光のあふれる場となっている。この町の一番の見所である、カルタゴ大聖堂は1926年に再建されたものである。コスタリカの守護聖母を祭奉っているこの教会は、毎年8月2日の「ロスアンヘルスの日」には、遠くはホンジュラスからも歩いて参拝の人が訪れるほどの信仰を集めている。黒人の牧師様が祭られている事も珍しい



アラフェラ alajuela

サンホセの北西約22kmに位置するアラフェラ県の県都。コスタリカの空の窓口で、茨城県と姉妹県関係にある。国を救うために自分のみを犠牲にした国民的英雄ファン・サンタマリアの出身地であり、市内中心部には記念の像が立ち、博物館が存在する。ちなみに、空港の名前も彼の名前から由来したもの。

プンタレナスPuntarenas

1840年頃に開港された太平洋岸の港町で、気仙沼市と姉妹都市関係にあるプンタレナス県の県都。コスタリカきっとの海水浴場としても知られている。もともと「砂浜の岬」という意味で、500m幅の砂浜が約6kmも続く。最近では湾の反対側にあるカルデラ港に世界的な豪華客船が停泊する寄港地としての役割も果たしている。ここからコスタリカの観光を始める外国人もよく見られるようになった。



エレディア Heredia

サンホセの北8.5kmに位置するエレディア県の県都。18世紀につくられた町で、スペインからの移住者の中心地である。プンタレナス

リモン Limon

カリブ海沿岸の主要港でリモン県の県都。古くからこの地方の商業中心地で、コロンバスの上陸地ともいわれている。バナナ、コーヒーなどの積出し港としても有名でコスタリカ最大の港である。バナナ・サトウキビのプランテーションが盛んだったころに鉄道工事等の労働者としてやってきた黒人の子孫が多く、カリブ海文化の影響を受けたレゲエなどが盛ん。毎年10月にあるカーニバルには多くの観光客が集まる。

リベリア Liberia

コスタリカ第二の国際空港の地でグアナカステ県の県都。パンアメリカン・ハイウェイも通り、交通の要所である。ニカラグア領に属していた過去を持つこの都市は大農場や大牧場が多く、文化的にもニカラグア色が濃いという特徴の町である。

ペニショナード制度

コスタリカでは1971年に「年金・恩給受給者を対象とした永住受入制度」であるペニショナード制度を施行。永世中立国であり、豊かな自然に恵まれたこの地は永住先として大変人気があり、現在約2万人の永住者を受け入れている。そのほとんどが北米出身者だが、近年ではヨーロッパや、日本を含めたアジア諸国からも永住者が増加している。まずは一度コスタリカを訪れて、多くの人が永住の地に選んだこの国をその目で見てほしい。



主な国立公園と自然保護地区

バーラ・オンダ国立公園
プラウリオ・カリージョ国立公園
カウイタ国立公園
コルコバード国立公園
チリボ国立公園
ラ・アミスター国立公園（世界遺産）
マヌエル・アントニオ国立公園
ココ島国立公園（世界遺産）
パロペルデ国立公園
リンコン・デ・ラ・ビエハ国立公園
グアナカステ国立公園
サンタロサ国立公園（世界複合遺産）
トルトゥゲーロ国立公園
アレナル火山国立公園
自然保護区
モンテベルデ自然保護区
バラ・デル・コロラド国立野生保護区
カーニヨ・ネグロ国立野生保護区
カラーラ自然保護区

バードウォッチング

鳥類は全世界で約9,000種が確認されてるが、コスタリカにはその10%（850種）に及ぶ種が生息しており、世界中のバードウォッチャーが憧れる「バードウォッチング天国」といえる。地形や標高によって生息する鳥の種類は様々なので、それぞれの観察地点ごとに特色豊かな鳥を見ることができる。



ウミガメの産卵

全世界に生息する8種のうち5種類のウミガメが、コスタリカの海岸へ産卵しに上陸する。一年中どこかの浜辺でその光景を見ることができる。シーズン中の数日間には何十万というヒメウミガメがいっせいに浜にやってきて、卵を産む「アリバダ」と呼ばれる現象を目にするれば、生命の神秘を実感することができるだろう。

トロピカルフラワー

コスタリカは野生蘭の宝庫でもあり、国花にも指定されている。ランカスターガーデンでは1600種以上の蘭が自然のままの環境で栽培されており、蘭愛好者をはじめたくさんの観光客が訪れている。また熱帯雨林や熱帯雲霧林を散策すれば、ほかにも様々なトロピカルフラワーを堪能することができる。

トレッキング

コスタリカの国立公園はトレッキングに理想的な環境だ。そこで出会う色鮮やかな鳥や珍しいほ乳類、あでやかな花々に目を楽しませながら、大自然のエネルギーを体中で感じることができる。トレッキングのコースは国立公園内を散策する初心者向きのコースから、チリボ山などへの本格的な登山コースまで、それぞれの体力に合わせて挑戦しよう。



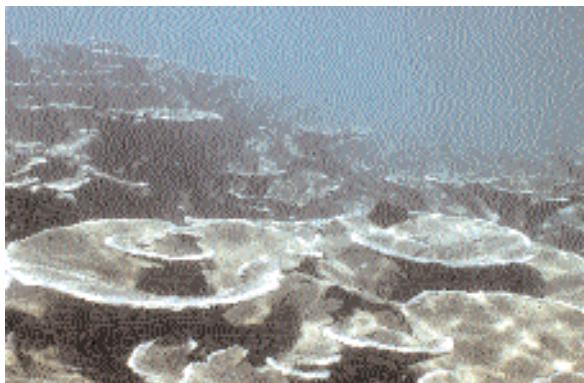
ウォーターラフティング

激流を豪快に下るウォーターラフティングは、コスタリカで最も人気のあるアウトドアスポーツ。それぞれのレベルに合わせてコースを選び、熱帯雲霧林に囲まれたレバンタソン川やバクアレ川を5~7人乗りのゴムボートで下る。水しぶきを浴びながらのラフティングは爽快そのものだ。



ダイビング

コスタリカは太平洋とカリブ海に挟まれているため、絶好のダイビングポイントが数多い。例えば海中渓谷の景観で有名なカニヨ島や、その昔海賊が財宝を隠したという伝説があり、また映画でも大ヒットしたマイケル・クライトンの小説「ジュラシック・パーク」のモデル島となるココ島などは特に魚影がこく、世界有数のダイビングスポットといわれ、ダイバー達の憧れの場所である。



フィッシング

フィッシングの醍醐味が味わえるのもコスタリカの売りのひとつ。例えば、かの開高健が「オーバー」に著した、銀色に輝く巨魚ターボンが釣れるバラ・デル・コロラド野生保護地区は代表的なフィッシングポイントといえる。アレナル湖では現地の「レインボーパス」が釣れ、また世界有数の魚影の濃さを誇る太平洋岸ではセールフィッシングが一年中楽しめる。



サーフィン

世界最長の左巻きの波がくる太平洋岸は、世界で3本の指に数えられる絶好のサーフィンポイント。国中のどこからでも2~3時間ほどでサーフィンのできるポイントに行くことができるが、中でもハコ・ビーチは首都サンホセから車で2時間弱で行くことができ、気軽にアクセスできるポイントだ。

ウインドサーフィン

海拔1,700mに位置するアレナル湖はフィッシングだけでなく、ウインドサーフィンでも有名なスポットで、世界でも5本の指に入る。12月から4月のシーズンには、時速42kmの風を求めて、世界中からウインドサーファーが集まってくる。

プライダルセレモニー

日本人に人気の海外挙式だが、コスタリカでも思い出に残る素晴らしい挙式が行える。一流ホテルのプレジデンシャル・スイートルームを貸し切ってのカクテルパーティーでは、ギターの生演奏でラテンムードを演出してくれる。サンホセ市内では、US\$150から200でウエディングドレスをレンタルすることができる。

エステと歯科治療

日本ではあまり知られていないが、コスタリカは歯科治療や美容整形の技術でも先進国並みの高さを誇る。欧米ではエステや美容整形、歯科治療を目的としたバカンス地として、コスタリカを選ぶ人も多い。美しい自然と充実したサービスに癒され、そして高度な技術で美しく変身する、という贅沢なリゾートライフを送ることができるのだ。

大型日本企業の現地法人

トヨタ通商（部品の供給）

N G K（インテル社に参加）

ブリヂストンタイヤ（ファイアストン）タイヤを製造

丸紅（発電関係）

パナソニック（バッテリー製造）

さかたのタネ（農業用の種）

日本貿易振興会（J E T R O）

国際協力事業団（J I C A）

カリアリ・コロビシホテル

ホテル・エラドゥーラ